

## 2014 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	間文化現象学研究センター
研究センター長名	谷 徹

### I. 研究成果の概要

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究センター5か年計画に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。

間文化現象学研究センターでは、2014 年度から科研費の採択により、新たな 5 カ年の研究計画を実現することになった。今年度の重点研究テーマは、「視覚の間文化性」であった。この研究は研究所重点プロジェクト「間文化性における知の混淆と異化」と緊密に連携して遂行された。これに関するワークショップを下記のように開催した。また、白川研との共催による国際シンポジウムを下記のように開催した。他方、過去の研究成果を単行本『間文化性の哲学』として刊行した。

#### 【間文化現象学研究会】

定期的に研究会を開いて、「視覚の間文化性」の解明の一環として、マーティン・ジェイ著『うつむく眼』の翻訳作業を行った。作業はほぼ順調に推移し、おおよそ 7 割程度の作業を終えることができた。残る作業は、2015 年度に遂行される。

#### 【間文化現象学ワークショップ「視覚と間文化性」】

2015 年 3 月 25 日に末川記念会館第三会議室においてワークショップ「視覚と間文化性」を開催した。発表者は、横田祐美子氏(大学院生)、松田智裕氏(大学院生)、田邊正俊氏、佐藤勇一氏、黒岡佳証氏(以上学内構成員)、和田渡氏(阪南大学教授)であった。「視覚」は、単純に超文化的に普遍的なものでなく、文化・歴史と緊密に結びついており、しかし、それゆえにこそまた個別文化を越える性質も持っている。こうした問題に対する洞察が、ワークショップをつうじて深められた。また、若手の参加も得て、若手育成の機会ともなった。

#### 【国際シンポジウム「西洋・東アジアと漢字文化の出会い」】

2015 年 3 月 8 日に敬学館 210 教室にて、立命館大学衣笠総合研究機構・白川静記念東洋文字文化研究所と間文化現象学研究センターの共催により、英語による国際シンポジウム「西洋・東アジアと漢字文化の出会い」を開催した。提題者はフランスワーズ・ボッテロ氏(フランス国立科学研究センター 東アジア言語研究所研究員)、關子尹氏(香港中文大学教授)、沈慶昊氏(高麗大学校教授)であった。西洋と東アジアの文化的出会いについて、また東アジア文化としての漢字文化への現象学の応用の可能性について、従来にないまったく新しい視座からの、実り多い議論を展開することができた。また、学内の他の研究センターとの共催の実現ということそれ自体も、センター間の研究協力という点で、大きな成果であった。

#### 【タリン・テネフ講演会】

副所長の亀井大輔の科研費と共催の形で「タリン・テネフ講演会」を開催した。その原稿の翻訳には、若手の横田祐美子氏、松田智裕氏を参加させた。原稿は、首都大学東京仏文学科紀要に掲載される(2015 年 6 月)予定である。研究展開のみならず、若手育成においても成果をあげた。

#### 【単行本『間文化性の哲学』刊行】

本センターでは、これまでの研究成果の一部にもとづいて、所長の谷徹を編者として単行本『間文化性の哲学』(文理閣)を 8 月に刊行した。これは、研究成果の発信という点において、大きな成果であった。

#### 【刊行支援】

若手の小田切建太郎氏のドイツ語著書刊行のために、翻訳チェックを支援した。

以上をつうじて、本センターの 2014 年度の研究計画は達成された。

## II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2015年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位	
センター長	谷 徹	文学部	教授	
運営委員	加國尚志	文学部	教授	
	亀井大輔	文学部	准教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	北尾宏之	文学部	教授	
	伊勢俊彦	文学部	教授	
	林芳紀	文学部	准教授	
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	池田裕輔	衣笠総合研究機構	研究員
		田邊正俊	衣笠総合研究機構	研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	学振特別研究員 (PD・RPD)			
	博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上在籍院生	松田智裕	文学研究科	博士課程院生
		横田祐美子	文学研究科	博士課程院生
		小田切建太郎	文学研究科	博士課程院生
	その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)	神田大輔	文学部	非常勤講師
佐藤勇一		文学部	非常勤講師	
青柳雅文		文学部	非常勤講師	
小林琢自		文学部	非常勤講師	
黒岡佳柁		文学部	非常勤講師	
酒井麻衣子		文学研究科	研修生	
客員協力研究員				
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)				
研究所・センター構成員	計 17 名	(うち学内の若手研究者 計 5名)		

### Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2015年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	Toru Tani	Figuren der Transzendenz	共著	2014年5月	Koenighausen & Neumann	Michael Staudigl / Christian Sternad	PP. 143~161
2	谷 徹	〈生と死〉 日独文化研究所シンポジウム	共著	2014年7月	こぶし書房	公益財団法人・日独文化研究所	PP. 85~112
3	谷 徹	間文化性の哲学	共著	2014年8月	文理閣	谷 徹(編者)	PP. iii~xiii
4	小田切建太郎	Horizont als Grenze: Zur Kritik der Phaenomenalitaet des Seins beim frühen Heidegger	単著	2014年	Traugott Bautz		PP. 115
5	亀井大輔	間文化性の哲学	共著	2014年8月	文理閣	谷 徹(編者)	PP. 38~54
6	亀井大輔	『現象学的看護研究 理論と分析の実際』	共著	2014年12月	医学書院	松葉祥一・西村ユミ(編)	PP. 201~203
7	神田大輔	間文化性の哲学	共著	2014年8月	文理閣	谷 徹(編者)	PP. 55~75
8	青柳雅文	間文化性の哲学	共著	2014年8月	文理閣	谷 徹(編者)	PP. 142~161

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	Toru Tani	Phaenomenalisierung der Kultur	単著	2014年7月	Mohr Siebeck International Yearbook for Hermeneutics, 13	Guenter Figal	PP. 88~99	無
2	伊勢俊彦	人間と自然の関係における狩猟の意義	単著	2014年5月	環境思想・教育研究会『環境思想・教育研究』7号		PP. 134 ~ 140	無
3	亀井大輔	デリダとメルロ＝ポンティにおける制度(化)の問題	単著	2014年9月	日本メルロ＝ポンティ・サークル(編)『メルロ＝ポンティ研究』18号		PP. 98~108	無
4	亀井大輔	目的論における終末論の裂目	単著	2014年11月	岩波書店『思想』1088号(特集:10年後のジャック・デリダ)		PP. 124 ~ 138	無
5	亀井大輔	自己伝承と自己触発 デリダの『ハイデガー』講義(1964-1965)について	単著	2015年1月	青土社『現代思想』43巻2号(総特集:デリダ 10年目の遺産相続)		PP. 173 ~ 187	無
6	横田祐美子	唯物論としての「内的体験」—バタイユにおける「未知のもの」と質料としてのアルケー—	単著	2015年2月	立命館大学人文科学研究所『立命館大学人文科学研究所紀要』105号		PP. 145 ~ 161	有
7	黒岡佳征	哲学と共同性—ハイデガーの本来的共存在解釈への一視座	単著	2014年3月	公益財団法人・日独文化研究所『文明と哲学』第6号		PP. 146 ~ 160	有
8	林芳紀	医学研究者の責務としての追加的ケア:部分委託モデルの概要と課題	単著	2014年8月	『医薬ジャーナル』50巻8号		PP. 107 ~ 111	無
9	Yoshinori Hayashi,	Handling incidental findings in neuroimaging research in Japan: current state of research facilities and attitudes of investigators and the general population	共著	2014年	Health Research Policy and Systems 12	Misao Fujita, Shimon Tashiro, Kyoko Takashima, Eisuke Nakazawa, Akira Akabayashi	PP. 58	有
10	Yusuke Ikeda	Transzendentaler Schein und phaenomenologische	単著	2014年	St. Petersburg, Horizon Tom3 (1) 2014		PP. 64~98	有

		Ursprünglichkeit - Welterfahrung bei Husserl und Fink						
11	Yusuke Ikeda	L' evenementialite du phenomene selon « Neue Phaenomenologie in Frankreich »	単著	2015年	Belgium, Revue internationale Michel Henry N° 6. 2015		PP. 177 ~ 202	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	Toru Tani	Roundtable: Future of Phenomenology in East Asia	2014年5月	Kairos and Topos: Phenomenology and the Celebration of Thinking, 6 <sup>th</sup> international conference of P. E. A. CE cum 8 <sup>th</sup> Symposia Phaenomenologica Asiatica, 香港中文大学	Nam-In Lee, Kuan-Min Huang, Xianghong Fang (Moderator: Kwok-ying Lau)
2	Toru Tani	Leib als Medium	2014年9月	Leib und Leben, Chateau Liblice	
3	Toru Tani	Zwischen und Begegnung - im Zusammenhang mit Megumi SAKABES Interpretation der Moderne	2014年10月	Diskurse der Moderne/n aus interkulturell-transkultureller Perspektive, XXIII. Kongress der deutschen Gesellschaft fuer Philosophie Westfaelische Wilhelms-Universitaet Muenster	Johann Schelkshorn, Lahkim Azelarabe Bennani (Moderator: Georg Stenger)
4	Toru Tani	Podium: Heidegger interkulturell?	2014年10月	Universitaet Wien	Georg Stenger, Helmut Vetter (Moderator: Martin Ross)
5	Toru Tani	Sein, Erscheinen, Kultur	2015年1月	Phaenomenologische Forschungen, Vortrag & Workshop Universitaet Wien	
6	Toru Tani	The Kaizo-articles and the “translasion” of phenomenology	2015年2月	Humilitas & humanitas, Lettura philosophiche in Ambrosiana, Attualita della crisi delle scienze europee, Ambrosiana	
7	伊勢俊彦	「持続可能性のための狩 猟」は倫理的に健全であり うるか	2014年12月	京都現代哲学コロキウム第11回例会・ ワークショップ「<動物の哲学>の挑 戦」、キャンパスプラザ京都	呉羽真、吉沢文武
8	亀井大輔	自己触発と自己伝承——デ リダの『ハイデガー』講義 をめぐって	2014年10月	ワークショップ「デリダ×ハイデガー ×レヴィナス」、早稲田大学・戸山キャン パス	川口茂雄、峰岸公也、馬場智一、小手川 正二郎、渡名喜庸哲
9	亀井大輔	デリダの『存在と時間』読 解と歴史の問題	2014年11月	日本現象学会第36回研究大会・ワーク ショップ1「初期デリダとハイデガー ——デリダの『ハイデガー』講義 (1964-65)をめぐって——」、東洋大学	加藤恵介、長坂真澄
10	亀井大輔	Workshop『獣と主権者Ⅰ』 を読む(第10回～第13回 の解説)	2015年2月	Workshop『獣と主権者Ⅰ』を読む、東 京大学・駒場キャンパス	西山雄二、佐藤朋子、郷原佳以、守中高 明、佐藤嘉幸、立花史、高桑和己
11	松田智裕	見えないものを参照する眼 ——デリダにおける視覚と 直観をめぐって——	2015年3月	立命館大学間文化現象学センター・ワ ークショップ「視覚と間文化性」、立命 館大学	和田渡、黒岡佳柁、佐藤勇一、田邊正俊、 横田祐美子
12	松田智裕	デリダにおける出来事と事 実性——出来事の(不)可 視性と初期目的論批判をめ ぐって——	2014年11月	ジャック・デリダ没後10年シンポジウ ム・プレセッション、早稲田大学	
13	横田祐美子	バタイユにおける非-知— —逃走する極へと向かう思 考——	2014年5月	バタイユ・ブランショ研究会(日本フ ランス語フランス文学会)、お茶の水女 子大学	
14	横田祐美子	唯物論としての「内的体験」 ——バタイユにおける「未知 のもの」と質料としてのアル ケ——	2014年10月	立命館大学「暴力からの人間存在の回 復」研究会、ワークショップ「現代思 想と物質性」、立命館大学	
15	横田祐美子	La vue dérobée: バタイユ における視覚・思考・裸性	2015年3月	立命館大学間文化現象学センター、ワ ークショップ「視覚と間文化性」、立命 館大学	和田渡、黒岡佳柁、佐藤勇一、田邊正俊、 松田智裕

16	Yuichi Sato	A Cursed Philosopher: Merleau-Ponty's consideration on Bergson and Christianity	2014年12月	OPO V Perth 2014, Phenomenology and the Problem of Meaning in Human Life and History, Murdoch University	
17	佐藤勇一	視覚の狂気と眼差しの帝国	2015年3月	立命館大学間文化現象学センター、ワークショップ「視覚と間文化性」、立命館大学	和田渡、黒岡佳祐、田邊正俊、松田智裕、横田祐美子
18	黒岡佳祐	共に住む場所への問いーハイデガーの根源的倫理学に寄せてー	2014年7月	レヴィナス研究会第4回関西例会、同志社大学	
19	Yoshimasa Kurooka	The Question of a Place to Dwell in Together: Heidegger and "Original Ethics"	2014年9月	第4回日中哲学フォーラム、北京	
20	黒岡佳祐	眼と耳ー解剖学的現象学と思索ー	2015年3月	立命館大学間文化現象学センター、ワークショップ「視覚と間文化性」、立命館大学	和田渡、佐藤勇一、田邊正俊、松田智裕、横田祐美子
21	林芳紀	医学研究者の追加的ケアの責務: 部分委託モデルの有効性と妥当性の検証に向けて	2015年3月	京都生命倫理研究会、朱雀キャンパス	
22	Yusuke Ikeda	Sinnereignisse und Weltereignis - Das Diakritische der Experienzialien bei Laszlo Tengelyi -	2015年2月	Charles University in Prague, Czech Republic, Stage d' hiver 2015. Journees d' hommage a Laszlo Tengelyi	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	「デリダにおける贈与と交換」	衣笠キャンパス	2014年12月	30	首都大学東京傾斜的研究費「ジャック・デリダの脱構築思想の国際的共同研究」 科研費・基盤研究(C)「遺稿調査にもとづくジャック・デリダの脱構築思想の生成史の解明」
2	国際シンポジウム「西洋・東アジアと漢字文化の出会い」	衣笠キャンパス	2015年3月	50	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所
3	ワークショップ「視覚と間文化性」	衣笠キャンパス	2015年3月	40	

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	亀井大輔	(共訳) ジャック・デリダ『獣と主権者I』	白水社	2014年11月
2	佐藤勇一	(講演)『メルロ＝ポンティ・コレクション』を読む	公益社団法人京都勤労者学園公開講座	2014年6月～7月
3	佐藤勇一	(翻訳) マウロ・カルボーネ、「沈黙、さまざまな沈黙」	『間文化性の哲学』谷徹編、文理閣、PP. 229～244	2014年8月
4	佐藤勇一	(講演)『フーコー・コレクション1 狂気・理性』を読む	公益社団法人京都勤労者学園公開講座	2015年1月～2月
5	青柳雅文	(翻訳) マックス・ホルクハイマー『初期哲学論集』	こぶし書房	2014年8月
6	青柳雅文	(翻訳) ペク・ジン「風土、持続可能性、空間の倫理ー和辻哲郎における文化的風土学と住宅建築ー」	『間文化性の哲学』谷徹編、文理閣、PP. 245～260	2014年8月
7	黒岡佳祐	(翻訳) クラウス・ヘルト「ヨーロッパの運命としての理念化」	『間文化性の哲学』谷徹編、文理閣、PP. 78～96	2014年8月
8	黒岡佳祐	(翻訳) ミヒャエル・シュタウディグル「ヨーロッパ、そして他者との関わり方への反省ーレヴィナスとデリダの視座による間文化性への批判ー」	『間文化性の哲学』谷徹編、文理閣、PP. 120～139	2014年8月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	加國尚司	「間文化性の理論的・実践的探求——間文化現象学の展開」	基盤研究(B)	2014年4月	2019年3月	代表者
2	伊勢俊彦	命を与える・命をもらう関係にかんするフェアネスと個性性の観点からの哲学的研究	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表者
3	亀井大輔	遺稿調査にもとづくジャック・デリダの脱構築思想の生成史の解明	基盤研究(C)	2014年4月	2017年3月	代表者

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	青柳雅文	アドルノの亡命期間における思想形成及び社会・文化との関係に関する研究	立命館大学 研究推進プログラム(科研費連動型)	2014年5月	2015年3月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国

以上